

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 12 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25350725

研究課題名(和文) 体育授業における動機づけに及ぼす動機づけ方略の効果に関する実践的研究

研究課題名(英文) A study on the effects of motivational strategies on student's motivation in physical education learning

研究代表者

伊藤 豊彦 (ITO, Toyohiko)

島根大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20144686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、体育学習における児童・生徒の動機づけを高める教師の動機づけ方略に着目し、自己決定理論の観点から、教師の行動が学習動機の形成や動機づけの向上に及ぼす効果を検討することを目的とした。その結果、教師が児童に対して行う「一般的学習支援」と技能の獲得や向上を目指した「有能さ支援」が、児童の学習動機を経由して、また、直接的に体育学習に対する動機づけを高めるという因果関係が認められた。中学生を対象とした体育授業場面における教師の働きかけは、生徒の関係性への欲求と有能さへの欲求を充足させることを通して、生徒の内発的動機づけを高めることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine (a) the relationships among teaching behavior, learning motives, and motivation for physical education learning, and (b) the effects of teaching behavior on students' motivation for gymnastics in physical education classes based on self-determination theory (SDT).

The main results were as follows: (a) the results of structural equation modeling (SEM) indicated that the perception of teacher's autonomy supportive behavior were associated with pupils' learning motives, which were in turn related positively motivation for physical education learning, and (b) the results of multiple regression analysis indicated that need satisfaction for relatedness to the teacher and competence were associated with students' intrinsic motivation. Practical implication of teachers' need-supportive teaching in enhancing students' motivation for physical education learning were discussed.

研究分野：体育学

キーワード：動機づけ 体育学習 自己決定理論 基本的心理欲求 自律性支援 実践研究

1. 研究開始当初の背景

体育学習において児童・生徒の動機づけを高めることは、学習の効果を左右する極めて重要な要因であることから、これまで、達成動機づけ理論、原因帰属理論、目標理論、内発的動機づけ理論などの動機づけ諸理論に基づく個人差の把握や学習意欲の喚起に関する研究が幅広く行われてきた。たとえば、本申請者が研究分担者として参加した「体育学習を通じた生きる力の育成」(基盤研究(B)平成18年~平成21年)の研究では、動機づけが生きる力を左右する極めて重要な役割をもつことを明らかにしている。

しかしながら、これまでの研究者による動機づけ研究に対しては、実践への貢献という視点を低く評価し、授業実践に利用できる研究成果や新たな授業・学習方法を教師に十分伝えてこなかった、基礎研究の結果を一方的に実践者に伝えようとする態度に終始し、さまざまな制約のある教育現場の現状を考慮してこなかった、というような課題が指摘されていることも事実である(たとえば、桜井・黒田, 2004)。

このような指摘に関連して本申請者は、「体育授業における動機づけ方略の検討」(基盤研究(C)平成19年~21年)において、これまでの動機づけ研究が主として個人に焦点をあてたものであり、個人を取り巻く教師や仲間といった社会文脈的要因が動機づけに及ぼす影響に必ずしも注目してこなかったことを指摘した。そして、動機づけに関連する社会的文脈的要因として、教材の工夫や教師による児童・生徒への支援の在り方、評価の方法といった教師が日常の指導場面で用いる多面的な教授的働きかけ(本研究ではこれを動機づけ方略と呼ぶ)が児童・生徒の動機づけに影響を及ぼす可能性を明らかにした(伊藤, 2009, 伊藤ほか, 2011)。これらの動機づけ方略は教師にとって制御可能な要因であることから、体育授業における児童・生徒の動機づけを高めるうえでどのような動機づけ方略が適切かを検討することは、社会文脈的要因から影響を受ける児童・生徒の動機づけを理解し、日々の教育実践に生かすという視点から、有益な示唆が期待できると

考えられる。また、多くの児童・生徒への対応が求められる教師にとって、現実的かつ実践的な知見を提供することが期待できる。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、動機づけを高める社会的な要因として教師が授業実践で用いる教授方略に着目し、体育教師が授業に適用可能な動機づけ方略を検討するとともに、それらの動機づけ方略を授業場面に導入し、動機づけに関連する要因との関連を明らかにすることを通じて児童・生徒の動機づけにどのような影響を及ぼすのかを検討することを目的とする。

具体的な研究目的は、以下のとおりである。

(1) 体育授業における動機づけに及ぼす動機づけ方略の影響に関する理論的研究

近年の動機づけの有力な理論である達成目標理論と自己決定理論を中心に、動機づけ方略が動機づけに及ぼす影響の理論的背景を明らかにする。

(2) 体育授業における動機づけに影響する動機づけ方略に関連する内外の文献的研究および質的研究

教師のリーダーシップ、自律性支援、声かけ、教育評価、などを手がかりに、体育授業で教師が用いる多面的な動機づけ方略を特定する。

(3) 体育授業における動機づけに及ぼす動機づけ方略の効果に関する実践的研究

(2)で明らかになった動機づけ方略を実際の体育授業場面に導入し、動機づけへの効果を多面的に検討する。

3. 研究の方法

上述した(1)と(2)では、主として文献研究を、(3)では、調査及び介入研究を行った。

4. 研究成果

(1) 本研究の理論的背景について

自己決定理論(self-determination theory)とは、環境・文脈と内発的動機づけとの関係に関する

る認知的評価理論(cognitive evaluation theory: CET),外発的動機づけの連続体と価値の内在化に関する有機的統合理論(organismic integration theory: OIT),自律性,有能さ,関係性への欲求充足と自己決定動機づけとの関係に関する基本的心理欲求理論(basic psychological needs theory: BPNT)などの下位理論から構成される。

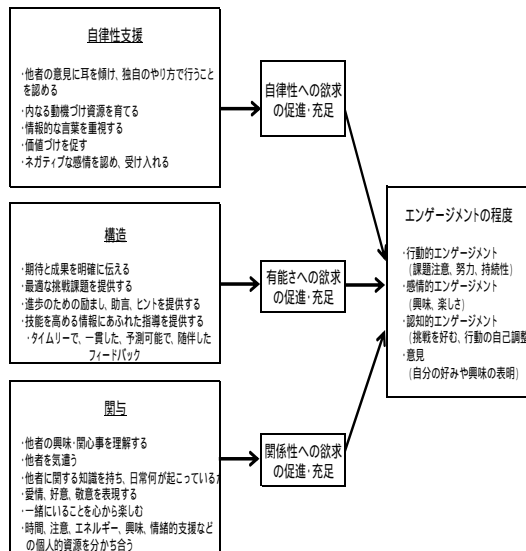


図1 自律性支援、構造、および関与と心理欲求との関係 (エンゲージメントモデル; Reeve, 2009a, Pn.166を基に加筆)

自己決定理論は、達成目標理論等の従来の動機づけ理論と比較して、体育学習における動機づけの構成要素を明確に特定しており、それらの関連や心理学的メカニズム、プロセスが明快に説明されている。とりわけ、動機づけの焦点として、児童・生徒の心理欲求の充足を特定し、それを充足させる教師の働きかけを自律性支援という概念で説明している点に特徴があり(図1)、実証的研究も蓄積されつつある。

さらに、この自己決定理論は、動機づけにかかわる国内外の先導的モデルとなっているだけでなく、実践への介入モデルとしての有効性や汎用性が高いと考えられることから、本研究では、自己決定理論をグランド・セオリーとして想定し、この先の検証を進めていくこととした。

(2) 自己決定理論の有効性の検証

ここでは、部員の動機づけに影響を及ぼす社会文脈的要因として指導行動を取り上げ、部員の心理欲求の充足の程度、動機づけ等と

の関連を2つの研究を通して検討した。

まず、運動部活動に参加する中・高校生615名を対象に、指導者の指導行動として自律性支援を取り上げ、心理欲求充足プロフィール、動機づけ、バーンアウト傾向との関連を検討した。その結果、運動部員の心理欲求充足の典型的なプロフィールとして、CL1:有能さ中充足群、CL2:高充足群、CL3:中充足群、CL4:友人依存群、CL5:低充足群の5つが見いだされ、指導者の自律性支援の程度は、部員の心理欲求充足の程度、並びに動機づけやバーンアウト傾向と密接に関連していることが示された。

つぎに、中学野球部員204名を対象に、指導者の指導行動の類型を明らかにしたうえで、そのタイプと部員の心理欲求充足の程度、動機づけとの関連を検討することを試みた。その結果、「中支援・中統制型」、「高支援・低統制型」、「高支援・高統制型」、「低支援・高統制型」の4類型を特定し、運動部活動の指導者は、部員に対して関係性、有能さ、自律性を支援する行動を積極的に行っていると認知されることが重要であり、かつ、統制的行動や関係性を阻害する行動を行っていないと認知されることが求められることが示唆された(表1)。

表1 各指導行動類型の動機づけ得点の平均値、標準偏差および分散分析結果

	指導行動類型				F値
	中支援・ 中統制型	高支援・ 低統制型	高支援・ 高統制型	低支援・ 高統制型	
動機づけ得点					
内発的動機づけ	4.0(0.83) bc	4.5(0.39) a	4.3(0.69) ab	3.8(1.01) c	8.37 ***
同一化調整	3.4(1.01) a	3.8(1.16) a	3.7(1.00) a	2.7(1.11) b	4.54 **
取入的調整	2.7(0.92)	2.6(0.92)	2.6(1.01)	2.2(0.92)	0.95
外的調整	2.1(0.90)	1.6(0.73)	2.1(1.01)	1.7(0.89)	3.45 *
非動機づけ	1.7(0.65) b	1.1(0.27) c	1.6(0.82) bc	2.1(1.14) a	12.1 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

† 数字の右肩のアルファベット記号は、各動機づけ得点ごとの多重比較(Tukey法)の結果を表し、同じ記号どうしの群は、5%水準で同じグループを形成していることを示す。

以上、自己決定理論から導かれる「指導行動」⇒「心理欲求の充足」⇒「動機づけ」の関連を、運動部活動場面を事例として確認できた。

(3) 体育学習場面における自律性支援、学習動機、および動機づけとの関係の検討

小学5・6年生485名を対象に、構造、自律性支援、関与の成分から構成される体育学習場面における教師行動と学習動機、動機づけ指標との関連を検討した。共分散構造分析の結果、教師が「一般的学習支援」と「有能さ支援」を行うほど児童の学習動機を經由して、また直接的に動機づけを高める関係が認められた(図2)。

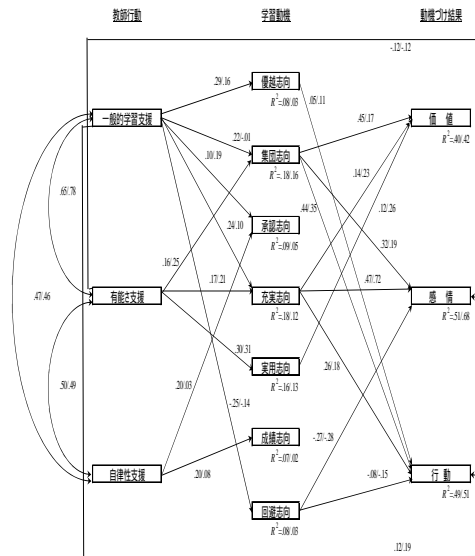


図2 教師行動、学習動機、動機づけとの関連

† GFI=.971, AGFI=.916, CFI=.989, RMSEA=.033
 ‡ 間接効果は統計的に有意。調整済みR²は学習動機を説明した。
 ††† 各経路の値を、男子/女子の順で示した。

(4) 体育学習場面における教師の働きかけに関する実践的検討

本研究では、自己決定理論に基づいて、中学校器械運動における生徒の動機づけに及ぼす教師の働きかけの効果を、3つの心理欲求(自律性への欲求、有能さへの欲求、関係性への欲求)の充足の観点から検討することを目的とした。対象は28名の女子中学生であり、10時間からなるマット運動単元を対象授業とした。大学院生である授業実践者は、

表2 心理欲求の充足の変化と動機づけの変化との重回帰分析結果(標準偏回帰係数)

心理欲求	動機づけ				
	非動機づけ	外的調整	取り入れの調整	同一化調整	内発的動機づけ
関係性(クラスメイト)	.075	-.075	.028	.156	.061
関係性(教師)	.291	-.007	.150	.114	.420 *
有能さ	-.418 *	-.257	.166	-.276	.376 *
自律性	-.169	.080	.258	.276	.203
重相関係数(R)	.561 †	.240	.426	.397	.701 **

† $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$

単元を通して、生徒の欲求を支援する働きか

けを可能な限り実施した。生徒は、単元前後に、心理欲求充足と動機づけにかかわる項目に回答した。主な結果は以下のとおりである。

教師の欲求支援的行動は、生徒の教師に対する関係性への欲求充足と有能さへの欲求充足を高めるものであった。重回帰分析の結果、教師に対する関係性への欲求充足と有能さへの欲求充足を高めた生徒ほど、内発的動機づけを高めることが明らかとなった(表2)。

以上、体育学習において教師が行う支援が児童・生徒の心理欲求の充足を通して、動機づけを高めることが明らかにされた。このことは、教師の支援が動機づけ方略として有効であることが、実践を通して実証されたことを意味するものである。

(5) 成果の国内外における位置づけとインパクト

まず第1に、体育学習における動機づけを高める動機づけ方略の理論的背景として、体育学習における動機づけの構成要素を明確に特定し、それらの関連や心理学的メカニズム、プロセスを明快に説明していること、とりわけ、児童・生徒の心理欲求を充足させる教師の働きかけを自律性支援的行動という概念で説明する自己決定理論が有用、かつ有効であることを示した点である。

第2に、介入研究を通して、児童の心理欲求の充足を意図した教師の働きかけが児童の動機づけを高めるという教師の学習指導に有益な情報を提供できた点である。

以上、本研究結果は、授業実践に利用できる研究成果や新たな授業・学習方法を教師に十分伝えてこなかったとする従来の研究に対する批判にこたえ得る、重要な知見を提供できたものと考えられる。

(6) 今後の展望

以上のことから、今後、自己決定理論に基づく介入研究のさらなる検討を通して、各心理欲求を充足させる具体的な教師の働きかけを特定する必要がある。

また、本研究結果の一般化については、一定の限界があることから、他の単元や男子を

対象とした実践における検討が必要であろう。さらに、発達段階別の検討を行う必要もある。

加えて、生徒の心理欲求の充足を支援する教師の働きかけの効果は、運動能力や学習意欲といった生徒の個人差によっても影響を受けることが想定される。それゆえ、これらの個人差に対応した動機づけ方略の検討が求められよう。これらを今後の課題としたい。

<引用文献>

Deci, E. L. and Ryan, R. M. (2004) *Handbook of self-determination research*, The University of Rochester Press.

伊藤豊彦 (2009) 学校体育における学習環境と動機づけ. 山陰体育学研究, 24: 11-20.

伊藤豊彦・横田禎明・畑田竜也 (2011) 体育授業における学習環境の認知と動機づけとの関係について. 島根大学教育学部紀要 (教育科学), 45: 27-36.

Reeve, J. (2009) *Understanding motivation and emotion* (5th Ed.). Hoboken NJ: John Wiley & Sons. p. 166.

桜井茂男・黒田祐二 (2004) 動機づけ理論は学校教育にどのように活かされたか - 応用研究の体系化と授業実践への貢献の評価 - . 心理学評論, 47: 284-299.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

伊藤豊彦 (印刷中) 体育学習における教師行動が児童の動機づけに及ぼす効果に関する研究 自己決定理論からの分析, 体育科教育学研究, 査読有, 印刷中.

河井克正・伊藤豊彦 (2016) 運動部活動における中学生が認知する指導行動類型と動機づけとの関係. 山陰体育学研究, 査読有, 31: 15 - 20.

伊藤豊彦・河井克正・池本雄基・杉山佳生 (2016) 運動部活動における中学生の指導行動の認知、心理欲求の充足、および動機づけとの関係. 健康科学 (九州大学健康科学編集委員会), 査読有, 38: 21-31.

森原遼子・伊藤豊彦・清田美紀 (2015) 運

動部活動における中高運動部員の心理欲求充足プロフィールに関する研究. 山陰体育学研究, 査読有, 29: 21-29.

[学会発表](計 4 件)

伊藤豊彦, 体育学習における教師行動が児童の動機づけに及ぼす効果 - 自己決定理論からの分析 -, 日本スポーツ心理学会第43回大会、2016年11月5日、北星学園大学 (北海道・札幌市)

名越由佳・久保研二・伊藤豊彦, 体育授業における子どもの動機づけに及ぼす指導の効果に関する研究 - 動機づけの自己決定理論からの研究 -, 日本スポーツ教育学会第36回大会、2016年10月29日、和歌山大学 (和歌山県・和歌山市)

河井克正・伊藤豊彦, 中学校運動部員における認知された指導行動類型と動機づけとの関連, 山陰体育学会第54回大会、2016年1月23日、鳥取大学 (鳥取県・鳥取市)
森原遼子・伊藤豊彦・清田美紀, 運動部活動における中高運動部員の心理欲求充足プロフィール, 山陰体育学会第53回大会、2014年12月13日、島根大学 (島根県・松江市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 豊彦 (ITO, Toyohiko)
島根大学・教育学研究科・教授
研究者番号: 20144686

(2) 研究協力者

河井 克正 (KAWAI, Katsumasa)
池本 雄基 (IKEMOTO, Yuki)
杉山 佳生 (SUGIYAMA, Yoshio)
森原 遼子 (MORIHARA, Ryoko)
清田 美紀 (SEITA, Miki)
久保 研二 (KUBO, Kenji)
名越 由佳 (NAGOSHI, Yuka)